

ファーストアカウンティングの経理シンギュラリティ構想

公認会計士試験問題、米国公認会計士試験で合格レベルの知識を実証した「Deep Dean」。経理AIエージェントによるAI時代の経理部門の実現。



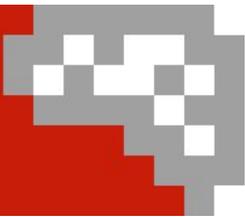
コーポレート部門で最大課題 深刻な経理人材の不足

出典: デロイトトーマツによるコーポレート部門従事者2,500人を対象とした調査

ファーストアカウンティングは

経理シンギュラリティで、人手不足とシステムの分断を取り払い
経理パーソンの力を、企業価値を生む力へと解き放つ。

FAST ACCOUNTING



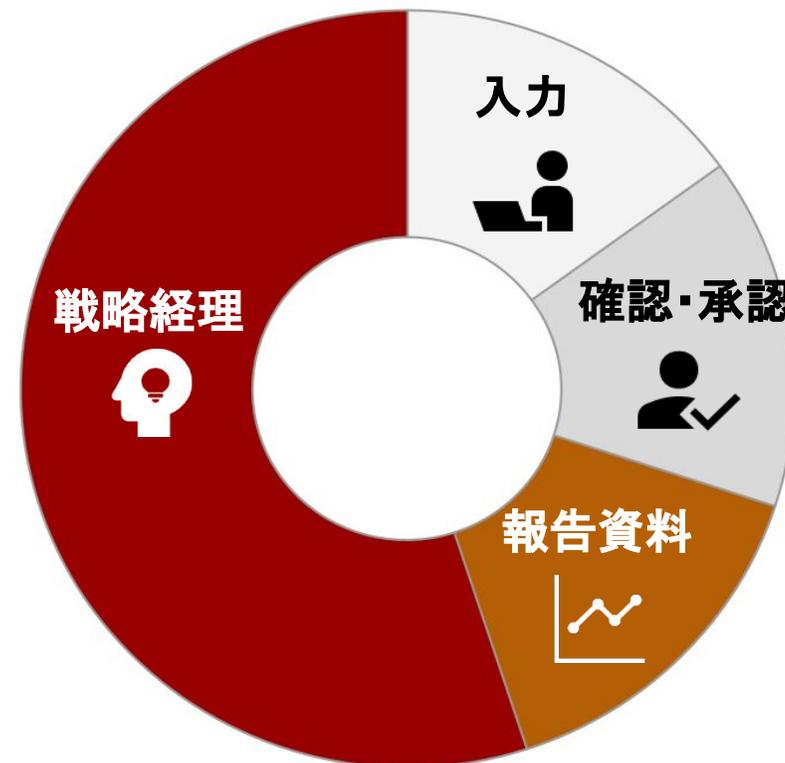
世界に通用するAIの力によって
正確で早い会計を実現したいという思いから、
FAST ACCOUNTING という社名にしております。

ファーストアカウンティングが目指す世界

現在



目指す世界

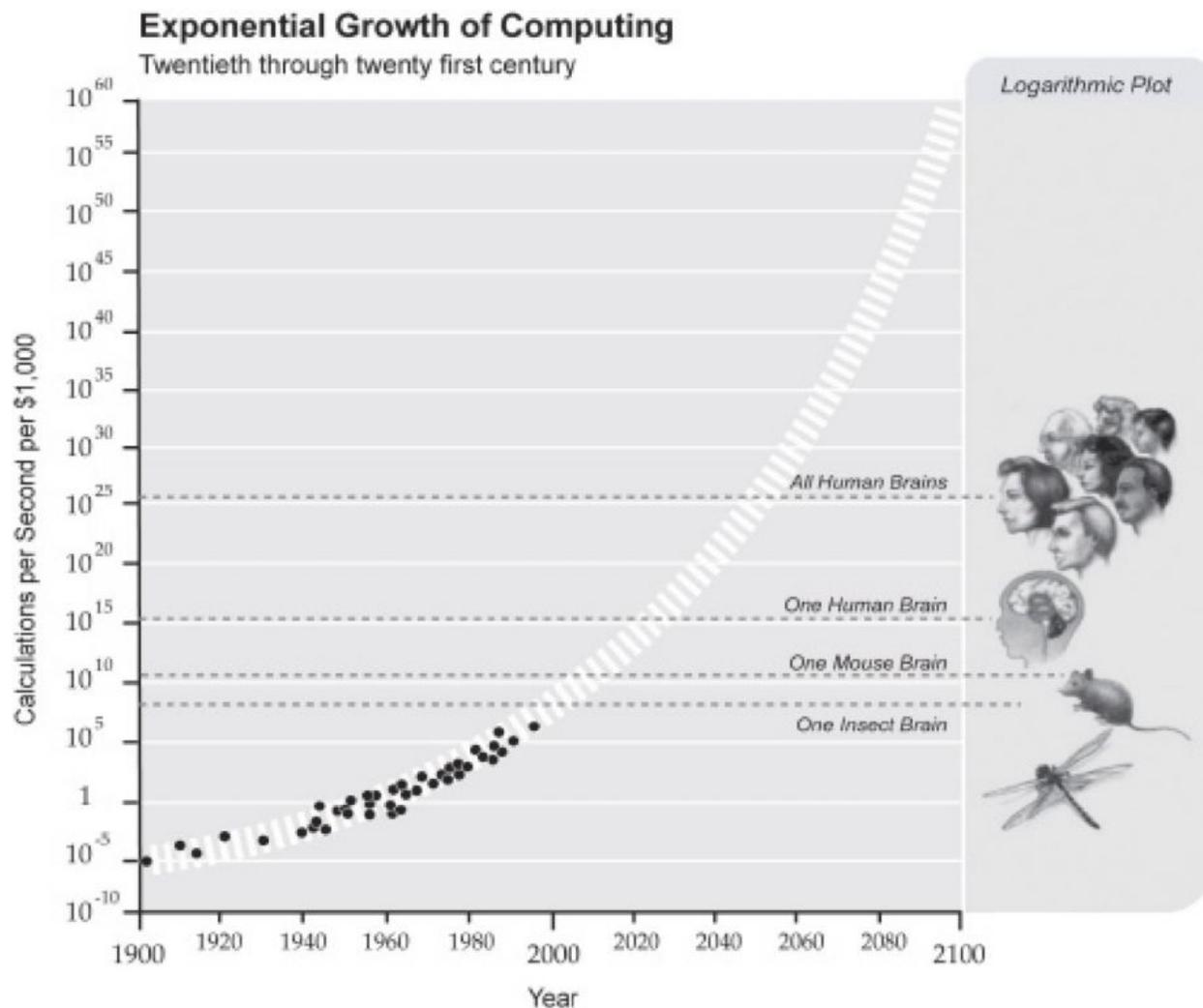


AI技術研究を活かした
サービス開発の提供

企業価値向上の実現
経理人材不足の解消

経理シンギュラリティ構想

シンギュラリティとは



シンギュラリティとは
AIが人間の知能を超える
転換点

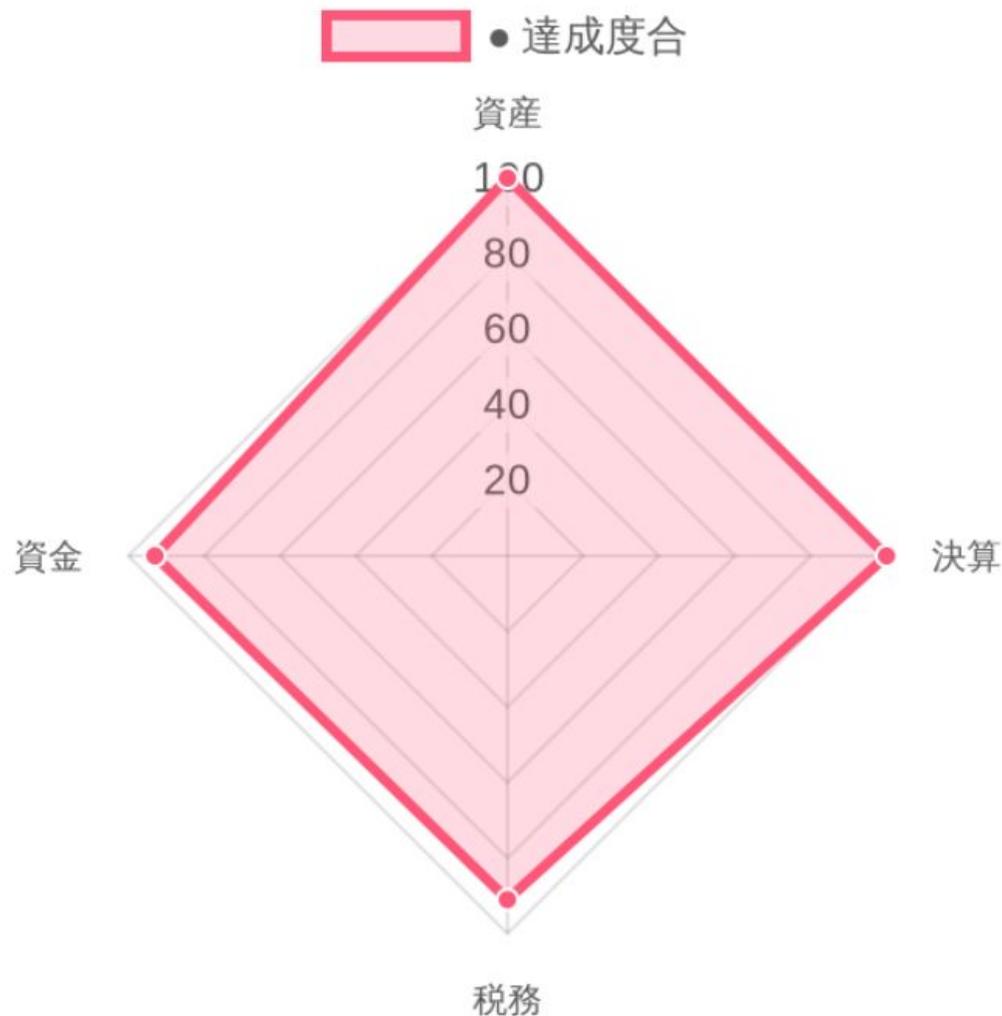
生成AIを独自に開発 FA Researchで論文採択8本

経理シンギュラリティの実現へ



2億件の経理処理と 生成AIによって シンギュラリティへ

シンギュラリティの証明



経理・財務スキル検定™

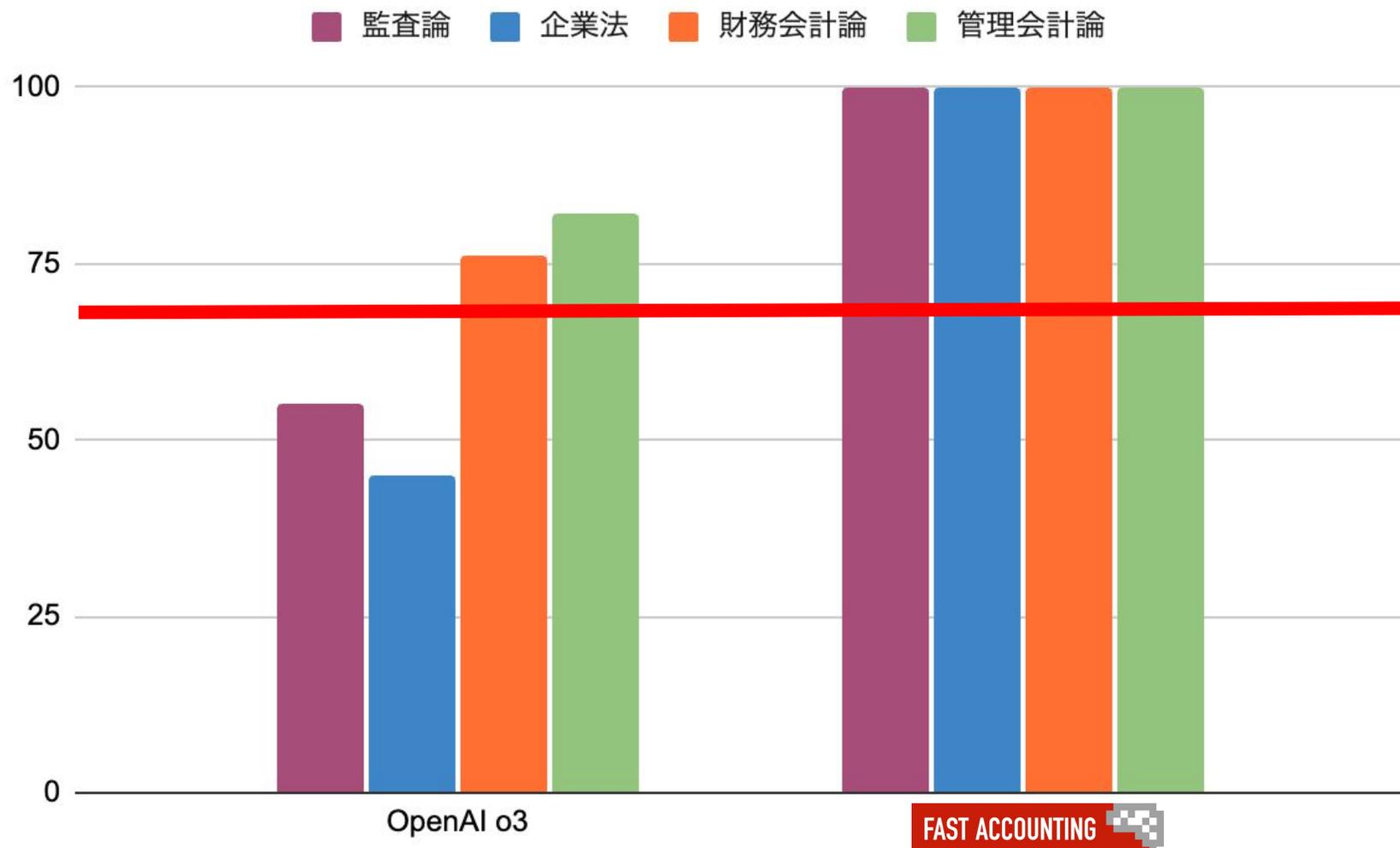
F A S S

Finance & Accounting Skill Standard

GPT4oやGPT4o-miniより 賢い生成AIの開発に成功

2025/03/28 プレスリリース
[経理の新時代へーファーストアカウンティングが経理シンギュラリティ構想についての記者会見を開催](#)

シンギュラリティの証明 公認会計士の一次試験:満点で突破

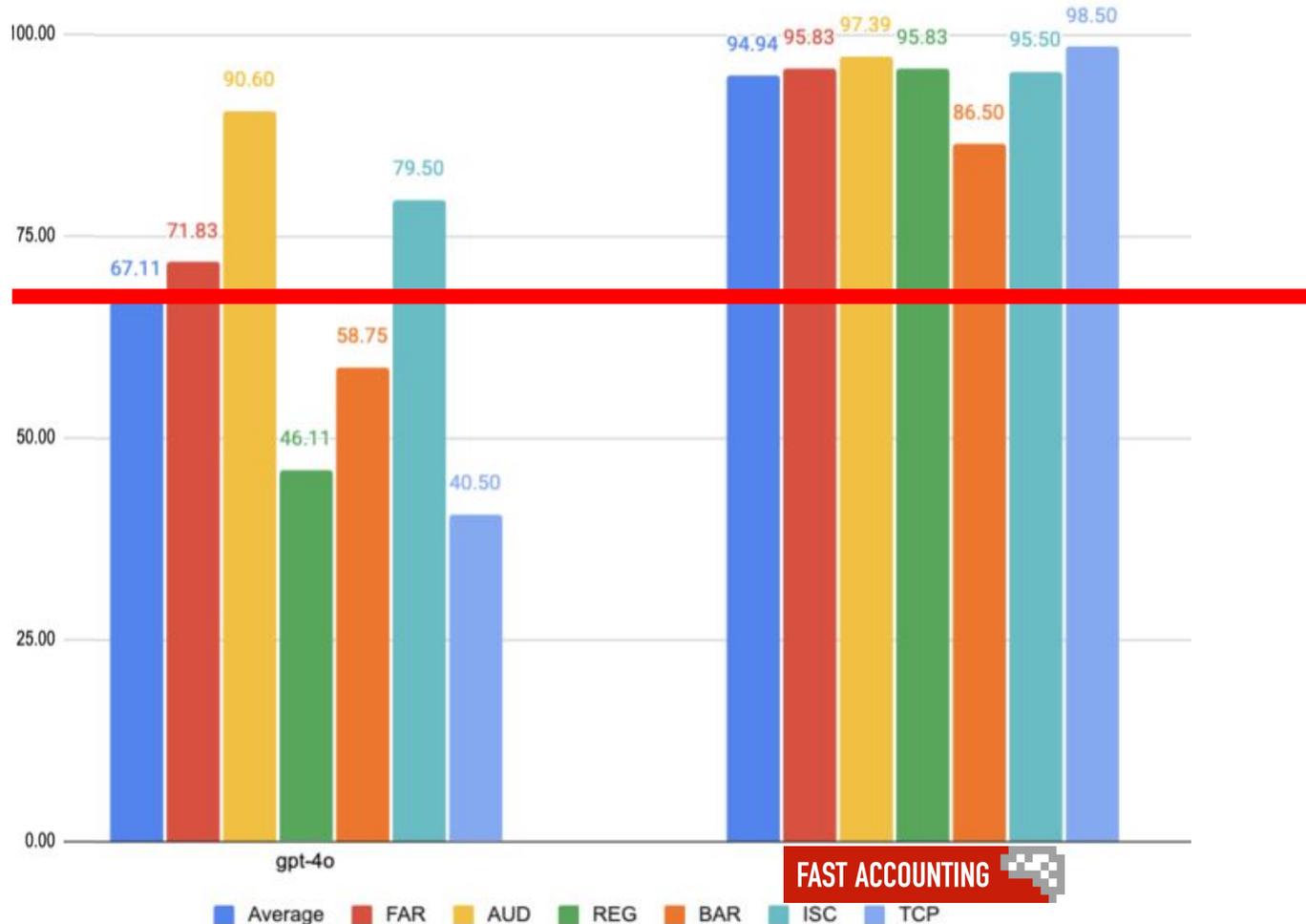


合格基準は4科目の総点数の

70%

2025/05/02 プレスリリース
[人材採用難を解決する経理特化型 AI 「Deep Dean」、日本の公認会計士試験問題\(短答式\)で満点を記録](#)

シンギュラリティの証明 USCPA試験合格レベルの性能を実証



Core Sections

- FAR – Financial Accounting and Reporting
- AUD – Auditing and Attestation
- REG – Regulation

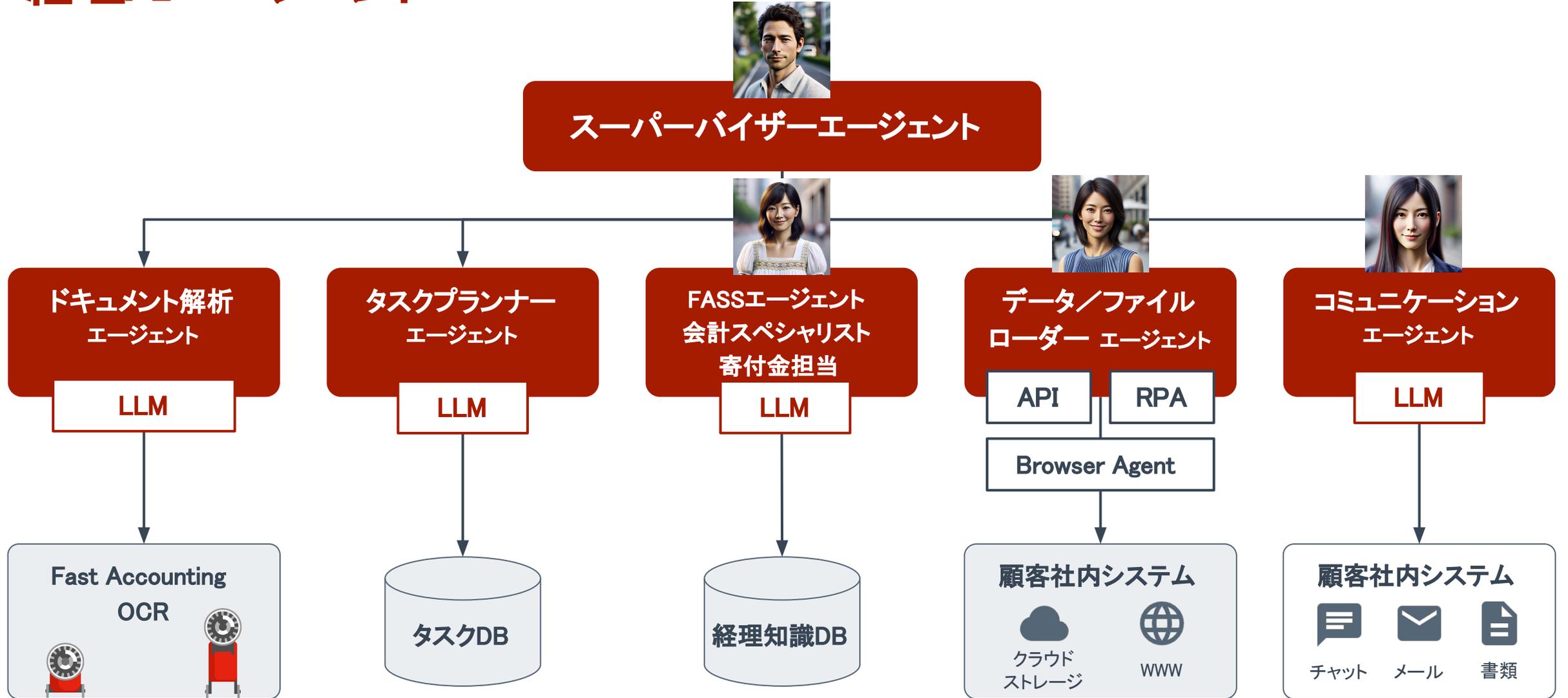
Discipline Sections (*Choose one*)

- BAR – Business Analysis and Reporting
- ISC – Information Systems and Controls
- TCP – Tax Compliance and Planning

2025/04/16 プレスリリース
ファーストアカウンティング、経理シンギュラリティ AI「Deep Dean」を開発

経理AIエージェント

経理AIエージェント





Supervisor Agent 鈴木

鈴木リーダー

1. AI Agentのリーダー
2. 24時間365日勤務
3. 各経理分野に熟知した
AI Agentにタスクを割振り



File Loader Agent 伊藤

伊藤の仕事内容

1. 取引先からの請求書を回収することが仕事
2. 取引先の各種ポータルにアクセスし、確実に回収
3. 各事業部から請求書も回収



Communication Agent 山本

山本の仕事内容

1. 申請の不備を発見
2. 不足している書類をメールや Slackなどで現場部門とコミュニケーションを行う



寄付金AI Agent 加藤

加藤の仕事内容

1. 法人税法の「寄付金の損金不算入」など税務上の取扱いをマスター。
2. 社内規程など各社ルールを覚えるのも特技。



資本的支出AI Agent 松本

松本の仕事内容

1. 資本的支出の税務知識をマスター
2. 各社の過去の判断も学習し資本的支出の判断を行う

制約を取り払うことで、
自信と勇気を与える。

FAST ACCOUNTING



ファーストアカウンティングについて

会社概要

ファーストアカウンティングは、AI技術で経理業務を自動化して効率化を実現する事業を展開する企業です。生成AIとコンピュータビジョンを中心としたAI技術によるサービス開発を行い、多くの大企業の経理部の お客様や会計ベンダーに提供しています。

会社名	ファーストアカウンティング株式会社
設立	2016年6月
所在地	東京都港区芝公園2-4-1芝パークビルA館・3階
代表者	森 啓太郎
従業員数	119名(2024年12月31日現在)
事業内容	経理AI事業(会計分野に特化したAIソリューション) <ul style="list-style-type: none">● 経理業務のAIモジュール『Robotaシリーズ』● 請求書処理のプラットフォーム『Remota』● デジタルインボイス送受信サービス『Peppolアクセスポイント』



※2

株式会社MM総研
「経理AIの市場性調査」

※2 株式会社MM総研「経理AIの市場性調査」の経理AIプラットフォーム領域にて売上シェアNo.1を獲得
調査手法:MMRI研究員による聞き取り調査(インタビューおよびメールによる問い合わせ)公開情報の収集・分析、
対象期間:2024年度(実績値)~2025年度(予測値)、調査時点:2024年12月

創業者略歴



森 啓太郎

1974年6月3日生。

兵庫県立大学 大学院社会科学部 経営学専攻
修士課程 修了(旧:神戸商科大学 大学院経営学研究科)
ソフトバンク株式会社を経て、アカマイ・テクノロジーズ日本法人
立ち上げに参画。営業本部長に就任し、2008年度営業成績
は世界No.1などの実績を残す。

シンギュラリティが起こりつつあるAIを使うことで会計システムへの自動入力や確認作業の自動化が可能となれば、経理の人手不足の課題解決できると共に、企業価値の向上など重要業務にリソースを割くことができる と考え、2016年6月にファーストアカウンティングを設立。AIソリューションのRobotaシリーズ及びRemotaをリリースし、エンタープライズ企業を中心に経理DXによる業務改革を強力に推進中。

導入企業例

年商500億円以上の大手企業の経理部に業務効率化のAIを提供



AsahiKASEI



大林組

OMRON

KaO



Kaneka
カガクでネガイをカナエル会社



kuraray



SUNTORY



SEGASammy



DAISO



TBS



TOPPAN

Nikon



brother



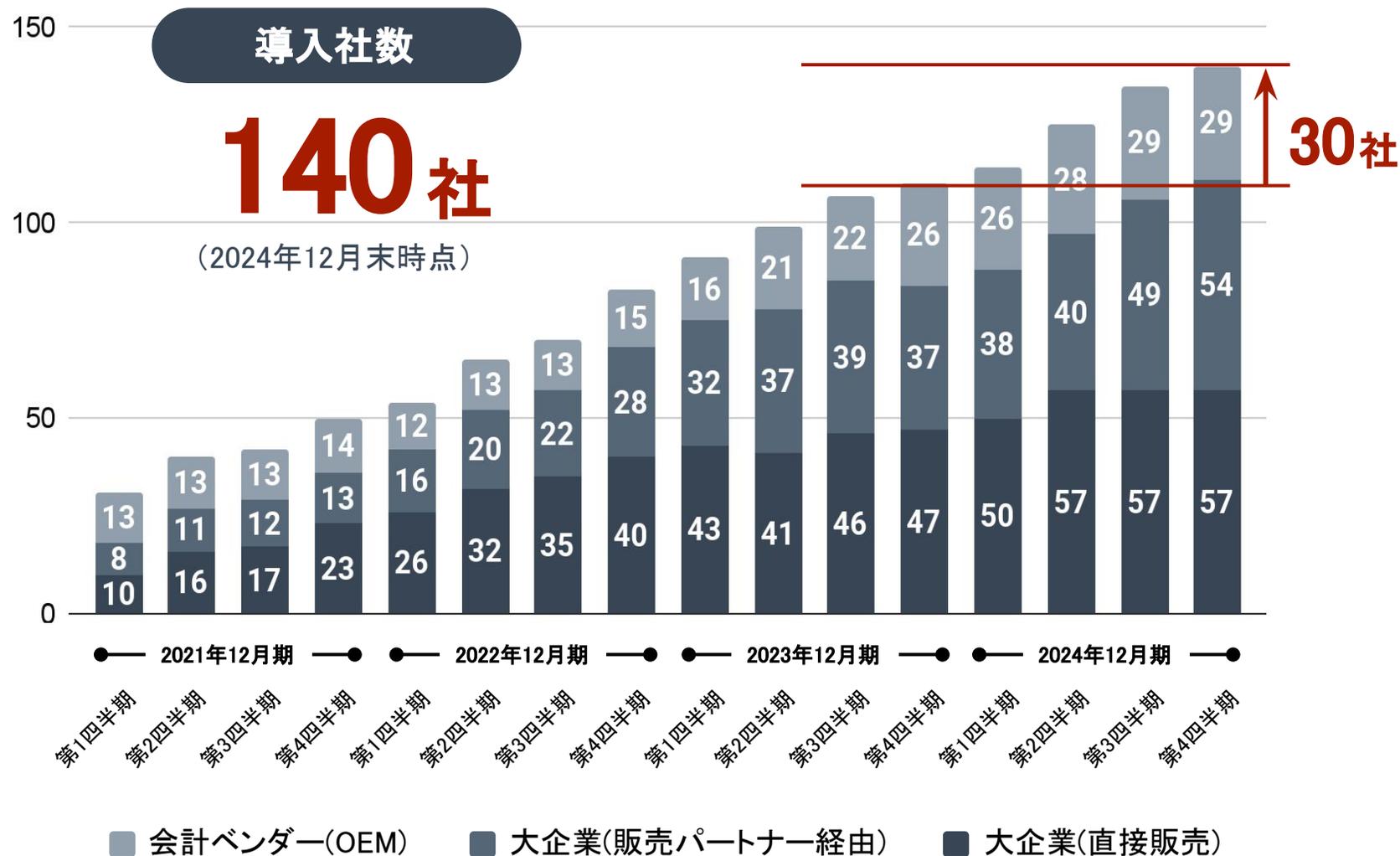
Leopalace21



※2025年2月14日現在

導入社数の推移

導入社数は順調に伸長



□ 大企業の導入社数は**111社** (うち直接販売が57社)

□ 会計ベンダー(OEM)の導入社数は**29社**

□ 直近1年間で30社増加 (うち大企業は27社増加)

AI研究への取組

FAリサーチ

<https://fa-research.ai/>



ファーストアカウンティングは創業以来、AI技術の研究に注力

コンピュータサイエンス技術の基礎・応用研究を目的としたチーム「FAリサーチ」を創設。

文字認識技術によるサービス開発 と生成AIなどの最新技術を研究。世界の学術会議で論文発表 を行い、新サービスを開発。

権利化 **72** 件 出願 **83** 件

※ 2024年11月14日現在。出願件数は、分割出願を除く。

採択論文

(一部抜粋)

- コンピュータービジョン分野の国際会議「WACV2024」にて生成AIの論文が採択
- 深層強化学習を用いた新しいロゴ認識手法に関する技術論文が「ICASSP 2024」に採択
- ドキュメント画像解析に関する技術論文が国際会議「LREC-COLING 2024」に採択

経理業務のデジタル化とAI化

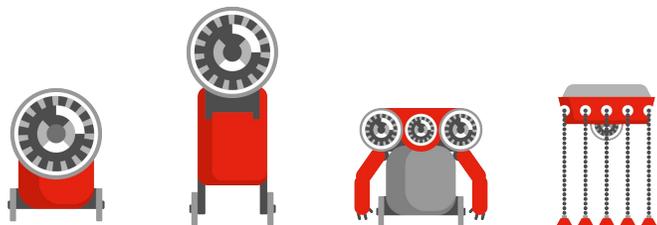
経理業務の自動化の事業

API

経理業務AIモジュール
Robota シリーズ

Robotaは、APIで提供する経理業務効率化を目的としたAIエンジンです。

請求書や領収書のAI-OCRによる読み取りや、振分・台紙切取などの前処理、仕訳や確認など経理業務のための様々なAIエンジンを用意しています。

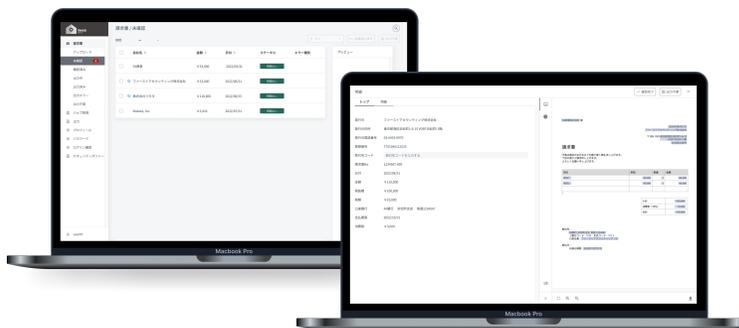


GUI

請求書処理プラットフォーム
Remota

Remotaは、請求書の処理に特化したクラウドサービスです。

請求書に記載されている日付・金額・仕入先などの情報をOCRで読み取り、AIによる検算や勘定科目の特定などを行ってERPやワークフローと連携することが可能です。



API

デジタルインボイス
送受信サービス
Peppol アクセスポイント

Peppol(ペポル)はデジタルインボイスに関する国際規格で、ファーストアカウントティングはPeppolのサービスプロバイダーとしてデジタル庁より認定を受けました。デジタルインボイス送受信の実現に向けサービス開発を進めています。



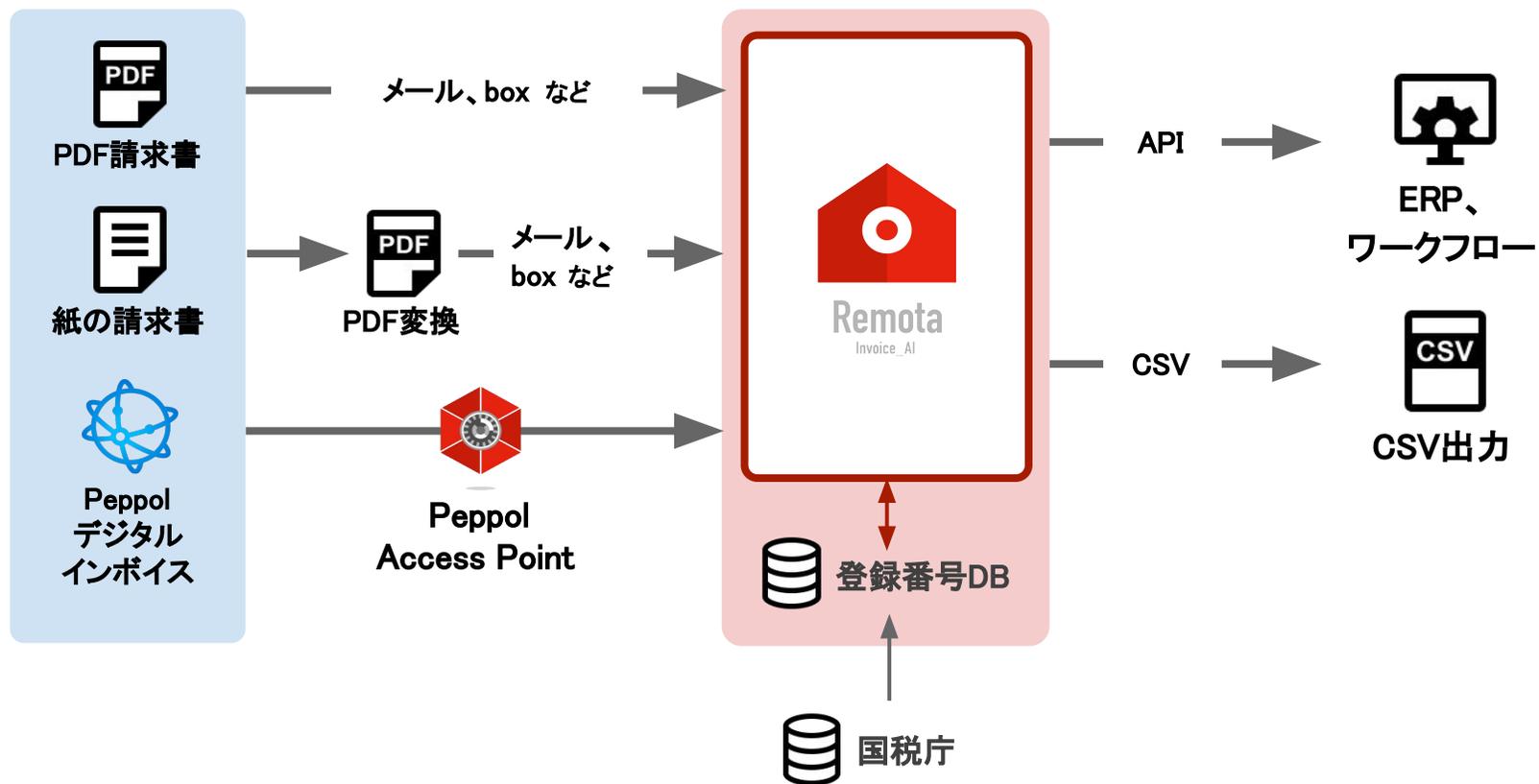
FAST ACCOUNTING

経理業務AIモジュールRobotaシリーズ

 請求書 Robota	請求書の画像から、金額、日付、相手先等処理に必要な項目を読み取り、テキスト情報に変換します。請求情報の鑑だけでなく、明細も読み取ることが可能です。
 領収書 Robota	領収書・レシートの画像から、金額、日付等処理に必要な項目を読み取り、テキスト情報に変換します。
 通帳 Robota	通帳の画像から、金額、日付等処理に必要な項目を読み取り、テキスト情報に変換します。
 台紙切取 Robota	経費申請書や支払申請書に添付されている領収書や請求書を検出して切り出します。切り出された証憑が回転していた場合には向きを補正した後の画像を出力します。
 確認 Robota	領収書・請求書Robotaが読み取った金額等が正しく読み取れているかを確認するために、複数の視点で整合性確認を行った結果を通知します。
 振分 Robota	証憑画像の種別を判定します。複数の書類を複合機やスキャナの連続スキャン機能などでまとめてスキャンし、一か所にデータ保存した際に、当該証憑画像を自動的に選別することができる便利な機能です。
 仕訳 Robota	入力された情報から、その証憑に対する勘定科目を推論して候補リストを通知します。領収書・請求書Robotaと連動して利用することで、証憑画像から読み取ったデータに勘定科目まで追加することができる機能です。

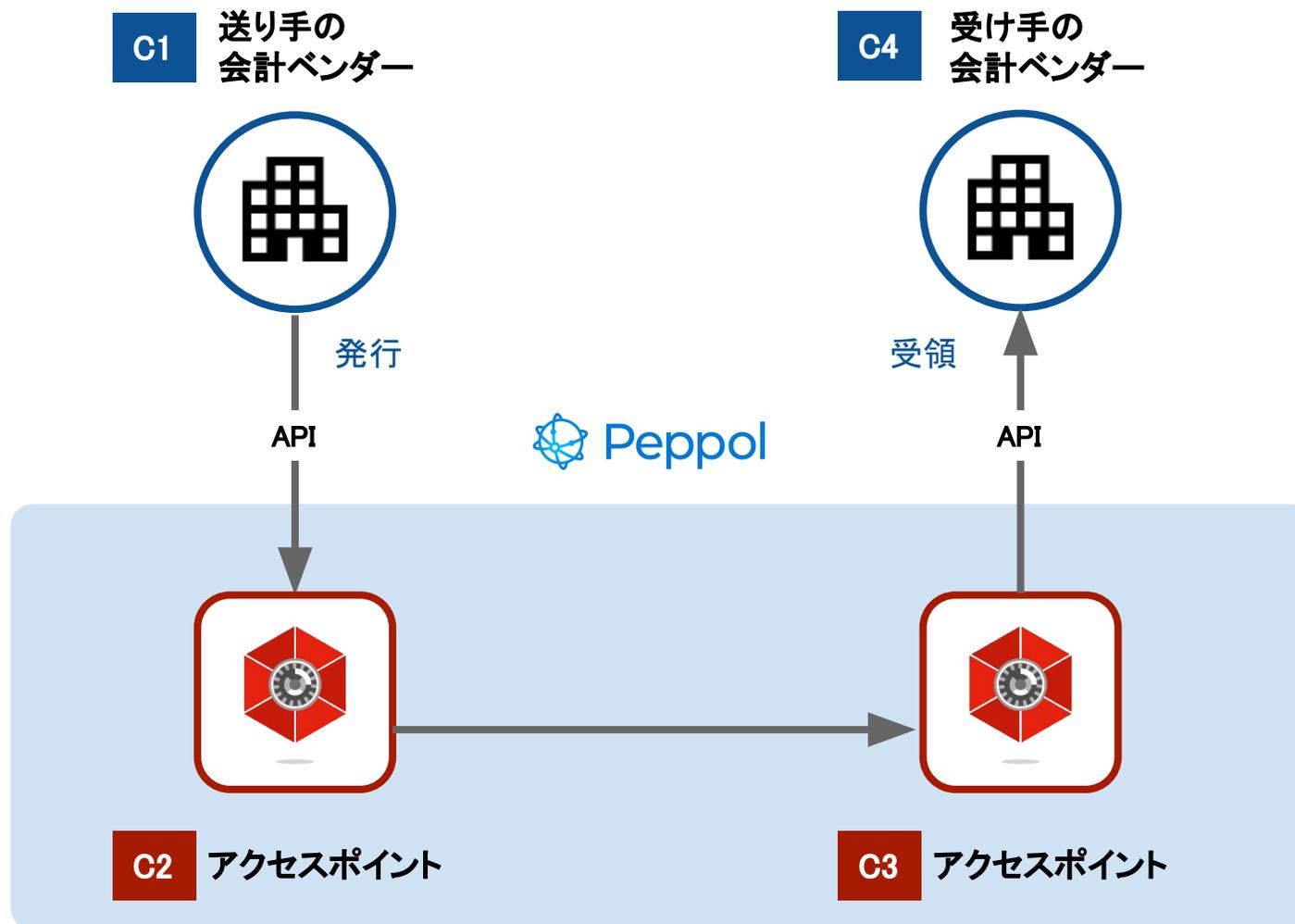
- Robotaシリーズは、読み取った文字や数値を入力するだけでなく、証憑画像を振り分けたり、台紙に複数枚貼られた証憑を切り取ったりする機能や、読み取った内容が合っているかチェックする機能あり
- 経費精算や請求書支払の突合業務でも利用可能
- 経理業務の自動化のニーズに合わせ、必要な機能を選択し、組み合わせで利用可能

請求書処理プラットフォームRemota



- ❑ 経理業務の効率化とリモート化を実現することができるユーザーインターフェースを搭載したRemotaを提供
- ❑ Remotaは、メールで請求書PDFファイルを受け取ると、自動で処理を実行
- ❑ 紙の請求書は複合機などでスキャンしてストレージにアップロードすると、メールと同様に処理
- ❑ 各種Robotaを組み合わせることで顧客のニーズに合わせた処理が可能
- ❑ ERP(基幹情報システム)やワークフローとAPIやCSV形式でシームレスに連携

Peppol サービスプロバイダー



- ❑ デジタルインボイスの送受信に必要なPeppolアクセスポイントを提供
- ❑ 日本におけるデジタルインボイスの標準規格としてPeppolが採用され、Peppolを用いた電子取引はアクセスポイントを経由
- ❑ 会計ベンダーは当社のアクセスポイントのAPIにつなぐだけで、デジタルインボイスの送受信が可能

Peppol (PAN-EUROPEAN PROCUREMENT ONLINE)とは、受発注や請求にかかる電子文書をネットワーク上でやり取りするための「文書仕様」「ネットワーク」「運用ルール」の規格で、国際的な非営利組織であるOPEN PEPPOLが管理しているグローバルな標準規格

特許戦略

自社の技術を守り、零細企業が大企業や競合と戦うための武器として、創業期から一貫して「特許戦略」を重要施策として推進

権利化 **72** 件 出願 **83** 件

※ 2024年11月14日現在。出願件数は、分割出願を除く。

創業期から「下町ロケット」神谷弁護士モデル・鮫島正洋先生にアドバイスを得ながら取り組んでいます。

また、鮫島正洋先生の書籍において、代表取締役社長 森の対談が掲載。

「スタートアップだからこそ大切にしたい知財、特許戦略」について触れています。



表紙イラスト: barks@PIXTA

制約を取り払うことで、
自信と勇気を与える。

FAST ACCOUNTING

